【特集】

この冬の防火戦略

大切な命・我が家を守るために

火災を「対岸の火事」と思っている人も多いはず。備えや危機感のないまま、火災が発生しやすいこの時期を過ごしていませんか？自分と家族、大切な我が家を守るためにいまできること、すべきことを考えてみませんか。

1日2人以上が火災で死亡

冬になると空気が乾燥し、暖房器具などを使う機会も多くなることから火災が非常に発生しやすくなります。火災は少しの油断で発生し、最悪の場合、死に至るというケースも少なくありません。実際に市でも、今年23件の火災が発生（10月末現在）し、3人の尊い命が失われています。

現在、全国的にみると過去10年で火災による死者数は減少傾向にあります（図1参照）。それでも、平成28年は年間885人が火災が原因で亡くなっています。1日平均2人以上が亡くなっているということに。特に高齢者の割合は増加傾向にあり、7割近くを占めています（図2参照）。

出火原因で多いたばこ、コンロ、たき火

出火原因で最も多いのは「たばこ（3712件）」。次いで「放火（3528件）」、「コンロ（3032件）」、「たき火（2857件）」となっています（図3参照）。

たばこ、コンロ、たき火が火災の原因となることは誰もが頭では分かっています。しかし、注意を怠ったために、住宅火災や林野火災につながっています。「火の近くには燃えやすいものを置かない」、「風の強い日には、たき火をしない」など常に「火事になるかも」という危機感を持つことが対策の第一歩です。

図1　全国の住宅火災による死者数の推移
（参考：消防庁ホームページ）

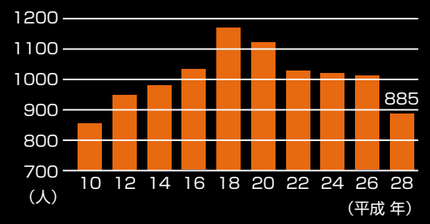


図2　全国の住宅火災による死者の高齢者が占める割合の推移
（参考：消防庁ホームページ）

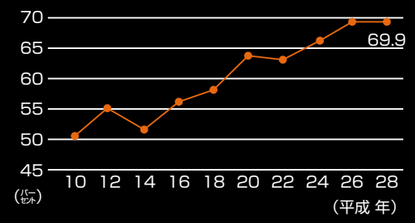
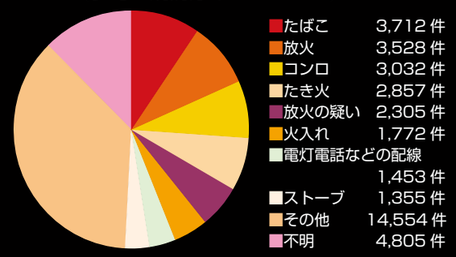


図3　平成 29 年出火原因の内訳
（参考：消防庁ホームページ）



火災対策の6つのポイント

火災の多くは、普段のちょっとした不注意や火の不始末などから起きます。家庭の火災に対する対策は万全か、見直してみましょう。

Point1

寝たばこは、絶対にやめましょう！

たばこは灰皿のある場所で吸うようにし、灰皿には水を入れておくようにしましょう。火のついたたばこの放置や投げ捨ては絶対にしないようにし、その場を離れるときは完全に火を消しましょう

Point2

火を使った料理中は、台所を離れない！

電話や来客などで、その場を離れる時は、必ずガスコンロなどの火を消しましょう。コンロの周囲や上部などに、燃えやすいものを置かないようにしてください。揚げ物をしているときは、特に危険です。

Point3

ストーブにはものを近づけない！

カーテンの近くでストーブを使っていませんか。ストーブの上で洗濯物を乾かすことも危険。また、ストーブを購入する際は、耐震自動消火装置付のものなどを選びましょう。

Point4

子どもにはライターで遊ばせない！

子どもはマッチやライターに興味を持っていますので、目の付くところに置かないようにしましょう。また日頃から子どもに、火の正しい使い方や火の恐ろしさをきちんと教えるようにしてください。

Point5

電気機器は適正利用、たこ足配線は×！

コンセントにほこりがたまっていると発火する恐れがありますので、こまめにきれいにしておきましょう。また、たこ足配線はほこりがたまりやすく、発熱を起こし火災へつながる危険があります。また、電気機器を使う前には、取扱説明書をよく読んでおきましょう。

Point6

風が強いときは、たき火はしない！

燃えやすい物の近くや風の強い日は、たき火をしないようにしましょう。突然の強風による飛び火で火災が毎年多発しています。たき火をする時は、その場を離れないでください。また、水を入れたバケツを準備し、終わったら残り火がないよう完全に火を消しましょう。

被害を最小限に！

住宅用火災警報器とは？

住宅用火災警報器は、住宅の壁や天井に設置し、火災の初期段階で発生する煙や熱を自動的に感知し、住宅内にいる人に対し、ブザーなどの警報音や音声で火災の発生をいち早く知らせ、避難を促す器具です。火災の早期発見に非常に役立ち、火災から大切な生命や財産を守る防災機器です。

なぜ義務化になった？

平成 28 年の住宅火災による死者数は、885 人となっています。このうち、約 7 割が 65 歳以上の高齢者。高齢化の進行にあわせて今後、死者数の増加が懸念されています。また、住宅火災で死亡した主な原因は、火災に気づくのが遅れたことによる「逃げ遅れ」。このようなことから、住宅火災発生時の「逃げ遅れ」を防止するため、全ての住宅で設置が義務化されました。